



夢の看護師に向かい第一歩

ふれあい看護体験

総合水沢病院のふれあい看護体験が5月16日、同病院を会場に行われました。この日参加したのは県南地区の中高生13人。担当看護師の指導のもと、白衣を身にまとった参加者は、看護の仕事の大切さとやりがいを学びました。血圧・脈拍測定、シーツ交換、車椅子介助、食事の配膳などを体験。車椅子介助体験では、実際に人を乗せて、院内を巡回しました。木村美咲さん（衣川中3年）は「車椅子は意外にスピード調整が難しく、大変でした」と語っていました。

狭い場所での車椅子介助を体験する参加者



今後の活動などについて議論された
みらい工房衣川の設立総会

衣川区

まちの担い手を育成したい

みらい工房衣川が発足

次代を担う人材育成を目的に「みらい工房衣川」が5月18日発足しました。同日、設立総会を開催し、規約や役員を決定。同会は、地域の10年後、20年後を見据えた今後のあり方を地域住民自らが考える必要があるという「人づくり」を目指し、同地区の有志4人が設立準備会をつくり、進めてきたもの。代表理事に選出された吉田裕悦さん（62）は、「協働のまちづくりの根幹をなす人づくりに重点を置き、活動していきたい」と今後の意気込みを語っていました。



第二の三好京三を目指して

第5回三好京三随筆賞表彰式

NPO法人三好京三顕彰会主催の第5回三好京三随筆賞表彰式が5月25日、前沢ふれあいセンターで行われました。前沢出身の直木賞作家・故三好京三さんの業績や人柄をしのび、心に響く文章を書きたいと願う人の随筆作品を募集したこの賞。ことしは大人の部に64編、子どもの部に18編の応募がありました。この中から、大人の部最優秀賞は盛岡市の阪東啓志さん（63）、子どもの部最優秀賞は上野原小学校6年（応募当時）の石川祐輔君が受賞しました。

大人の部最優秀賞の三好京三賞を受賞した阪東啓志さん



洪水吐きから越流する奥州湖の水

胆沢区

待ちに待った世紀の瞬間

胆沢ダム奥州湖が満水に

今年度の完成に向け試験湛水中の胆沢ダム奥州湖が5月6日、ついに洪水時最高水位（356.5メートル）に達しました。

きれいな水があふれ出すこの光景は、試験湛水中、1日しか見られない光景。この満水位の光景を一目見ようと、5月3日から6日まで期間限定で一般開放した同ダム管理庁舎の展望デッキには、県内外から1万3千人を超える人が訪れ、そのスケールの大きさに感動の声を上げていました。



初めての体験に歓喜の声

水沢・胆沢でグリーンツーリズム体験



真剣なまなざしで進路を見つめる内海君と受け入れ農家の石川千早さん

仙台市立西多賀中学校（高橋秀策校長、生徒376人）の2年生125人による農業体験学習が5月22、23日の2日間、水沢区と胆沢区の受け入れ農家などで行われました。

初日は胆沢区内の水田18アールで田植えを体験。その後、おうしゅうグリーン・ツーリズム推進協議会（村上寛会長）の会員農家28戸に民泊し、2日目の23日は、各農家で農作業の体験をしました。

石川千早さん（胆沢区南都田）宅で機械での田植えを体験した内海天斗君は「初めての体験で楽しかった。少し曲がってしまったけど、ちゃんと稲が生えてきてほしい」と実りの秋に期待を膨らませていました。



岩谷堂の歴史を歩いて学ぶ

城までハイキング

えさし郷土文化館主催による「城までハイキング」が5月18日、岩谷堂城跡周辺を歩くコースで行われました。同館を出発した参加者36人は、途中、向山からの景色を眺め、夢の橋を渡り、岩谷堂城跡周辺を散策。本丸から二の丸へと、同館学芸員の説明に耳を傾けながらハイキングを楽しみました。

本丸付近に建立され、藤原経清・清衡父子が祀られている「二清院」では、今回特別に内部をご開帳。参加者は次々と手を合わせて参拝しました。

会話をしながらハイキングを楽しむ参加者たち



りりしい表情で行進する騎馬武者姿の参加者

水沢区

健やかな成長を願いながら

子供騎馬武者行列

子どもたちの健やかな成長を願う「子供騎馬武者行列」が5月3日、水沢区市街地で行われました。これは、前九年・後三年の合戦を終結させた源頼義・義家父子の故事にちなみ、昭和11年に始まったもの。昨午が雨天で中止だったため、2年ぶりの開催となることは、騎馬40頭、稚児を含め200人以上が参加しました。

りりしくもかわいらしい武者姿に沿道からは、盛んな拍手と声援が送られていました。